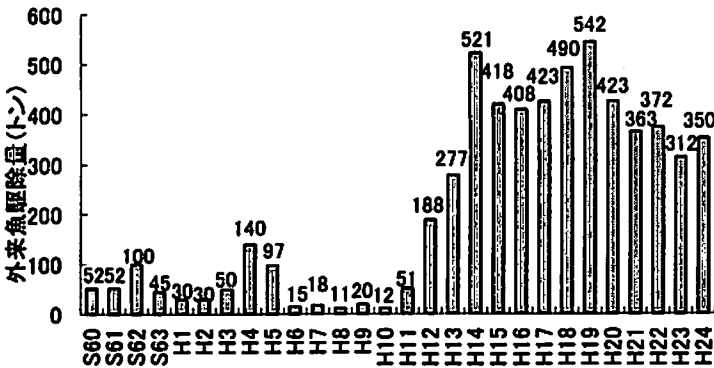


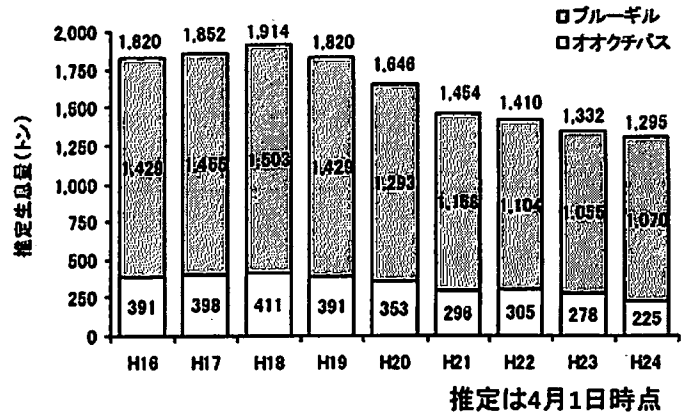
# 外来魚駆除の状況について

## 1. 駆除量と生息量の推移

○水産課事業における外来魚駆除量の推移

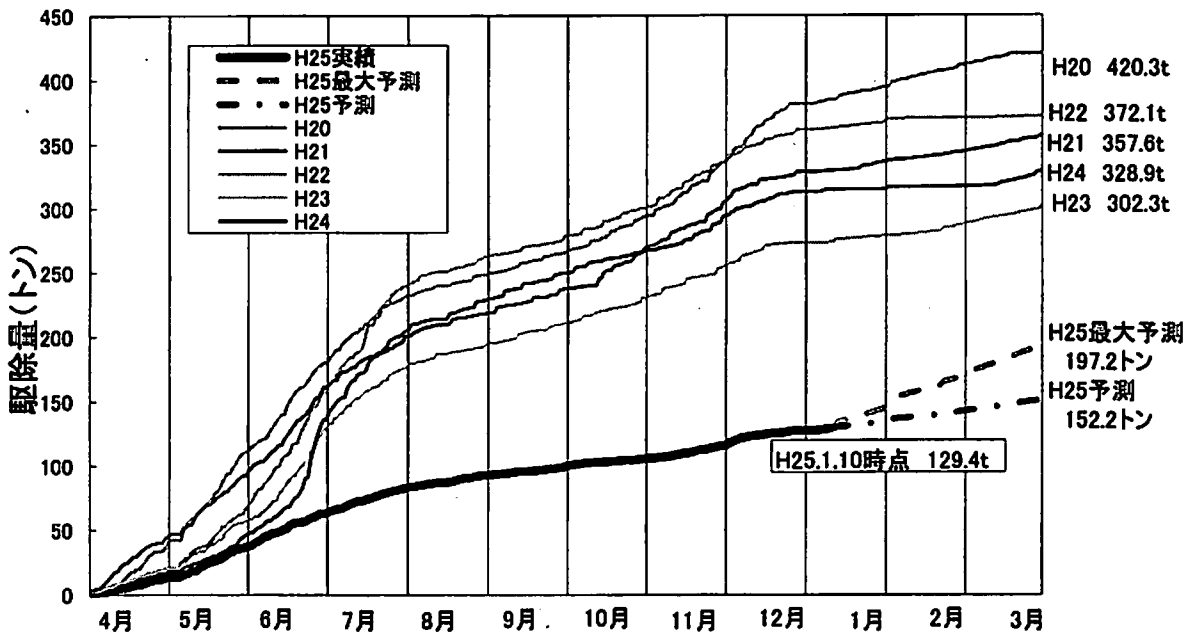


○外来魚推定生息量



## 2. 今年度の駆除量見込み

○過去5年の外来魚駆除促進対策事業(300円/kgの経費補助)の実績と平成25年度の予測



\*平成25年度末見込みについて

- ・現状のペースから、年度末の駆除量は152.2トンと予測される。
- ・過去5年間の一日当たり駆除量の最高値を積算すると最大197.2トン。
- ・さらに、漁業者等への働きかけを強めるなど、駆除の強化により15トン程度の上積みを目指す。

◆外来魚駆除促進対策事業による最大駆除量見込み

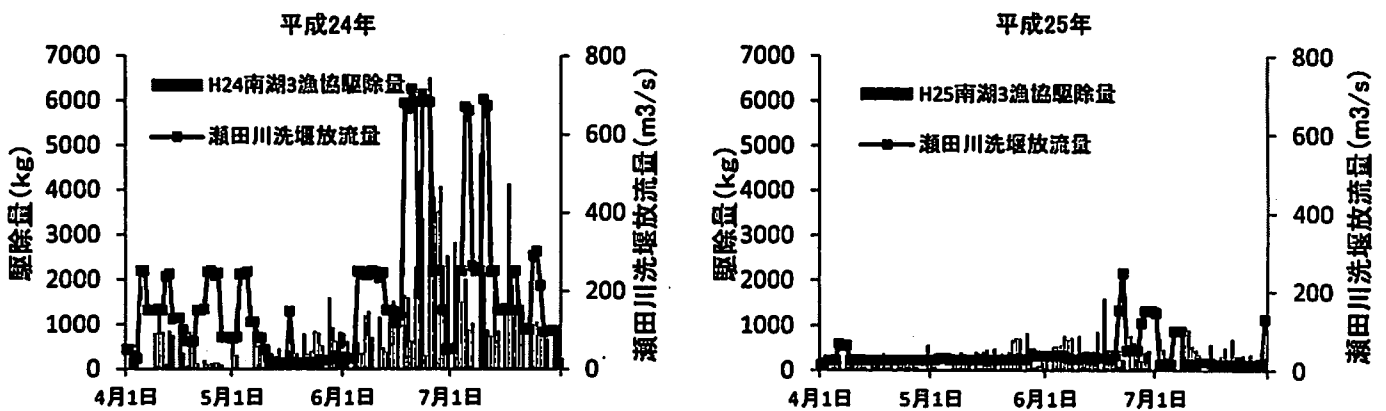
197.2トン + 15トン = 212トン

## ○平成25年度の水産課事業における駆除量見込み

駆除方法		当初見込み 駆除量(トン)	年度末最大見込み 駆除量(トン)
外来魚駆除促進対策事業 (漁業者による駆除、300円/kgの経費補助)		315.0	215.0
電気ショックャーボートによる駆除	南湖 (種魚発生抑制事業、パワーアップ事業)	15.0	15.0
	西の湖 (内湖の在来魚生産機能の回復・向上試験事業)	2.0	1.9
沖曳き網による駆除 (種魚発生抑制事業)		15.0	15.0
合計		347.0	246.9

## ○駆除量の減少理由

- ・年間駆除量のうち4~6割が、5~7月に捕獲されている。
- ・このうち大部分は、瀬田川洗堰操作による水位変動があったときに、南湖地先各漁協のエリで捕獲されるもの。
- ・平成25年度は4~7月にかけて降水量が少なかったため水位変動が小さく、捕獲量が少なかったと考えられる。
- ・また、台風18号による流木により外来魚捕獲用の特採エリの多くが破損したため、9月中旬以降の駆除量が伸びなかった。



瀬田川洗堰放流量と南湖漁協(山田、守山、大津)の外来魚回収量の関係

## 3. 平成26年度の見通し

**引き続き、年350トンを目標に駆除を継続する。**

- ・依然として生息量は1,200トン程度あると見込まれること。
- ・特に、平成24年にブルーギルが大量に発生しており、これらが平成26年に漁獲サイズとなること。
- ・4~7月にかけての降水量が平年並みであれば、同時期の捕獲量が回復すると考えられること。